

## 高校生との意見交換会 第3部

午後3時30分 開会

中田議長) それでは、第3部に入りたいと思います。

第2部では、それぞれ少人数に分かれて皆さんの御意見も十分引き出せたのかなというふうにも見ておりますが、各班長さんから報告をしていただきます。

それでは、最初に、第1班、車戸議員から報告をお願いします。

車戸議員) それでは、高校生との意見交換会第1班の報告をいたします。

第1班は高山工業高校の皆さんと意見交換を行いました。高山工業高校の皆さんの意見発表のテーマは、「継承する飛騨の匠と技」というテーマであります。

その概要は、まず、木工産業を始め、地場産業の振興を凶ったらどうかという点と、もう一つは、やはり大きな企業、大企業を誘致してほしい。それを踏まえ、また新しい産業も創設するようなことをしたらどうかという概要でした。これを受けていろいろ意見交換をしました。

生徒の皆さんから、第1点は、こういうところへ就職したいといっても地元志向は果たしてどうなのかという点、第2点は、木工産業を始めとする産業振興はどうかという点、第3点は、どのように地域産業を育成するか、夢のある地域にするかという点、この3つに絞られました。

最初に、生徒の地元志向という点で生徒の皆さんから、いい給料をいただこうと思うけれども、なかなかない。だから、どうしても都会へ出てしまう。さらには、自分がやりたいという企業の数も少ないから都会へ行ってしまう。それが一番大きな問題で、選択肢がもう少しあったらいいなど。そういう企業、産業がふえたらいいなという願いを訴えられました。このことについては、やはり地域の経済界、それから、政治の中でも、企業育成に力を入れないといけないという意見交換をしました。

次に、木工産業のことについても問われました。生徒代表の1人は地元の木工産業の会社へ就職が決まりましたと。自分が生かせると思った。今の木工家具の状態はどうですかと聞かれましたから、木工産業で1,300人くらいの雇用があり、売り上げも105億円と、徐々に一昨年より1割くらい伸びているという議員からの答えがあり、木工産業はまだまだ伸びるチャンスはあるとい

うことで、高山工業高校の中でも木工産業にかかわれるそういうチャンスが随分あるのではないかというような意見交換がありました。

次に、地域産業の育成、振興はどのようにしたらできるんでしょうかというテーマがありました。これについては、今、高山市が10年計画で始めようとしている飛驒高山ブランド戦略、これによってブランド力を上げて産業の活気づけをしようとしていますと説明をしました。

さらには、例えば個人クラフト作家がいて、小さな家具をつくる。しかし、今度は売る戦略がないから、それもやはり戦略に乗せたりして、そういう小さな企業も伸ばそうということも地場産業の育成でやらないといけないという意見交換もありました。

さらに、生徒さんからは、山が多い高山市です。これを何とか生かせないかということ、地元の木工業の材料として調達すること、さらには、僕は中部電力へ勤めるのだけれども、これをもっとエネルギーとして生かせないか。さらには、温泉とか、いろんなエネルギーがあるのではないかそれらの振興もしたらどうかということもありました。

このような意見交換を踏まえ、私たちの班では、これからの課題に向けた方策、議会としての対応等々については、やはり大企業誘致は常にチャンスをもってアピールしないといけない、しかし、今度は小さな企業を大きく育てる、そういう方向で力を入れないといけないだろうというような意見交換があって、最後には大企業と地元企業とのコラボが大切ではないかということを生徒の皆さんから提案を受けました。さらに、会社での高校生の体験学習なり体験の中で小さな会社で体験したんだけど、こんなにいいところがあるのもっともっと高山市の企業なり会社はいいところをアピールするのが小さいのではないかと。もっとアナウンスを大きくしたらいいのではないのでしょうかと、そういう意見もいただき、なるほどなというふうで意見が合意しました。

そのほか、商品の販売強化、特に高山工業高校できょう展示してありましたけれど、こういうようなアイデアとか知恵をもっと商品化して、地場の産業育成に貢献できたらうれしいという意見があって、うん、そうだなという意見が交わされました。

それから、最後に、高山工業高校の生徒の皆さんからは、この高校へ入って非常に誇りに思っているという部分が非常に大きいと。だから、こういう時代になったんだから、それぞれの専門の高校も大事にしてください、もっとも

っと工業高校、または飛騨高山高校を含めた専門科のいいところをもっともっとアピールして、いっぱいそこで学んでいただくようにしたら先輩としていいのではないか。さらには、高山工業高校を始め、女子生徒のようになってくれる数が少ないので、やはりこういう時代になったから、女性の方もいっぱい入っていただいて高山工業高校を始めとした専門校の育成に力を入れてもらったら私たちもうれしいという意見があって、第1班の意見交換会は終了しました。

以上で報告を終わります。

中田議長) 第1班の皆様、ありがとうございました。

次に、第2班、水門議員、班長の立場で御報告をお願いします。

水門議員) それでは、第2班の報告をします。

第2班は飛騨高山高校山田キャンパスの皆さんと意見交換をいたしました。飛騨高山高校山田キャンパスの皆さんの意見発表のテーマは「安全・安心な高山のまちをめざして」で、その概要は、高山高校の環境科学科では、市、県、企業と連携し、社会基盤のメンテナンスサポーターという資格を取られておられて、防災研究に取り組んでおられます。これまで学校周辺の橋りょうの点検をされました。また、市内の西小学校、花里小学校の6年生を対象にしたDIG、これは災害図上訓練ですが、による防災学習の推進を行ってこられました。今回は、高山のまちの安全と市民の防災意識の向上を図るための意見をお聞きしたところでございます。

その発表の資料にもありますが、生徒さんのほうから3つの視点を上げられております。それを論点として話し合いをしました。

1つ目は、高山市の森林管理の推進でございます。市には90%以上の森林があり、それがしっかり生かされていないのではないかと、もったいないのではないかと、それから、林業が産業として成り立たない、成り立つための施策にもっと力を入れるべきではないかと、森林の役割の大きさをもっと意識するべきではないかというような意見がありました。

2つ目には、危険箇所の修繕、危険箇所をチェックしてくださり、たくさん危険箇所があることに気がつかれたようでございます。その部分を早く直してほしい、高校生の皆さん、そして、市民の皆さんからの情報が入るシステムづくりをしなければいけないのではないかと、施設を早目に直したほうが長もちするのではないかとという意見がありました。

3つ目には、防災意識の向上であります。高校生が小学生にDIGをするこ

とで意識が高まった、楽しかったという意見がありました。自分の家の周りの危険を知ることができた。DIGをもっと広げるべきではないかという意見がありました。

そういう論点で意見交換をした内容を踏まえ、当班としましては、「安全・安心な高山のまちづくりをめざして」というテーマの部分につきましては、森林の管理を推進するための施策を重視すべきではないか、危険箇所の情報収集をする方法をもっと早く入るようなシステムづくりをするべきではないか、防災意識の向上については高校生の皆さんの力も発揮していただいて、そういう場をつくるのが大切ではないかという形でまとめさせていただきました。

そのほか、今回の高校生との意見交換会につきましても、勉強していることに関して議員との話し合いができて身近に感じた。また、有意義でこれを続けてほしいということも意見交換させていただきました。また、18歳選挙権、これに対しても意見交換をさせていただき、早いうちからこういう部分での勉強ができることには賛成だという意見をいただきました。

最後に、議員からは、高山の高校生は問題意識をしっかりと持って大変すばらしいと。そして、高校生の意見をしっかりと市政にも取り組んでいかなければならないというような発言もありました。

以上で2班の報告を終わります。飛騨高山高校山田キャンパスの皆さん、ありがとうございました。

中田議長) 第2班の皆様、ありがとうございました。

次に、第3班、班長の中箴議員、報告をお願いします。

中箴議員) それでは、第3班の報告をいたします。

第3班は斐太高校の皆さんと意見交換を行いました。斐太高校の皆さんの意見発表のテーマは「学生が高山市に求めること」ということで、その概要は、1、2年生の生徒に対して行ったアンケート結果に基づいて、交通機関の利便性の向上、通学時の安全確保、学習施設やスポーツ施設の建設、整備という率直な御意見でありました。

これを受けまして、当班では主に、若い人たちにとって住みやすいまちというのはどういうまちなのか、また、そのために市はどこまで寄り添えるのか、どこまで寄り添うべきか、また、議会としてどう関与していくべきなのかというようなことを論点として意見交換をいたしました。

皆さんからは、公共交通については高校生だけではなく、お年寄りを含む市

民の足の確保という意味で大事ではないのかと。また、生徒の皆さんの協力もやっぱり必要なのではないかという意見、また、交通の便の増便とかいうことについてはどこまでふやせばいいのかという部分で、利便性の向上と負担という観点で総合的な考え方が大事なのではないかというような意見、また、安全の確保については、生徒さんの安全確保というのは最優先で取り組むべき大事な課題であるという一方で、自転車の走行について高校生のマナーについては生徒会としても徹底していきたいと生徒会長さんから力強く言っていただきました。

また、公共施設、学習施設やスポーツ施設の整備については、単に欲しいという考え方ではなくして、イベントの誘致にもつながるし、市の観光にもメリットがあるのではないかと、そういった御意見がありました。

施設の建設については、議員のほうからも、野球場であったり、サッカー場の建設については希望をする市民の方の声が大変多いという意見、そして、また、一方の偏った考え方だけではなくて、あったらいいものと本当に必要なものという幅広い視点、全体観に立って物事を考える必要があると感じたというような意見もありました。

こうした意見交換の内容を踏まえ、当班としては、「学生が高山市に求めること」というテーマの意見発表に関し、ほとんどが進学等で一度は高山を離れるという斐太高校の生徒さんの現状の中で、帰ってきてほしい、若い人が帰ってきて元気で活躍できるまちにしたい。そのために安全に関することは最優先で取り組んでいく。また、高山市の抱える少子高齢化、人口減少、まちの空洞化や高齢者福祉、子育て環境の問題、雇用の問題、そして、また、財政上の課題等々、総合的に見きわめた上で若者にとって暮らしやすいまち、魅力を感じるまちにして、若い世代を高山に呼び戻す、また、呼び集めるということのために本当に必要な施策というのは何なのか、交通面や施設整備も含め、一步踏み込んで一緒に考えていこうと。こういう場を今回限りではなく継続していくべきではないかというような率直な御意見もいただきましたという形でまとめさせていただきました。そのほか、高校生の皆さんがとられたアンケートの中にあつた音楽スタジオの整備、あるいは教員の教育といった点についても若干意見交換をしたところです。

以上で第3班の報告を終わります。斐太高校の皆さん、本当にありがとうございました。

中田議長) 第3班の皆さん、ありがとうございました。

次に、第4班、藤江議員、お願いします。

藤江議員) それでは、第4班の報告をします。

第4班は飛騨高山高校岡本キャンパスの商業研究部の皆さんと意見交換会を行いました。意見発表のテーマは「商品開発でまちづくり」でした。

その概要は、エゴマの葉を活用した商品開発により休耕田の活用や高齢者、障がい者の働く場づくりや、それによる医療費の抑制なども最終目的とした具体的な御提案でありました。これを受けまして、当班におきましては主に3つ論点として上げて議論をさせていただきました。

1つ目は、現在、生産量が40袋程度の生産数では目的を達成できないため、増産していく必要があり、そのためには独特で強烈なおいのするエゴマの製茶過程を何とかしなくては。また、学校だけでは限界があるので、誰かほかに主体となってやってくれるところが必要ではないか。また、2つ目は、目的達成のためには多くの人にエゴマ茶を知ってもらう周知活動が必要ではないか。そして、3つ目は学生さんの役割についてを論点としまして意見交換会をいたしました。

1つ目の増産するために何が必要かという論点につきましては、原材料の調達や製茶場や製茶機が必要であり、ブランド化や販路の確保も必要である。そのためには学校だけでは限界があるので、JAやエゴマ研究会（飛騨高山あぶらえ研究会）など、ほかの諸団体との連携が不可欠ではないかといった意見がありました。また、周知活動の必要性につきましては、より多くの人にエゴマ茶を、もしくはエゴマを知ってもらう必要があり、増産、そして、飲んでいただくことが必要ではないか。そのためには料亭とのコラボレーションなどいいのではないかといた御意見がありました。また、産官学の役割分担の中で、学生さん、学校の果たす役割はというところにも議論が及びまして、その論点につきましては、商品開発やお茶のブレンドを開発していきたいということと、それから、空き店舗を活用してお菓子の販売とともにお茶をPRしていきたいといった積極的な御意見が学生さんからも出されました。

こういった意見交換の内容を踏まえまして、当班としましては、課題解決に向けて議会が何ができるかということですが、議会は諸団体との連携、先ほども申し上げましたけれども、JAだとかエゴマ研究会、ほかにもいろいろ料亭だとか、いろんなところがあると思いますけれども、そういったところと例え

ば協議会のようなものを設置することも考えの中にも含みまして、連携のため、つなぎ役をしていきたいという意見が各議員から出されました。

そのほかは、本当にこの課題につきまして議論が白熱をしまして、ほかのいろんな意見交換をちょっとできませんでしたが、本当に皆さん、純粋に高山のことを思っていたきましてすばらしい発表をしていただきました。そして、学生生活は3年間という限りがある時間ではありますけれども、こういったことを後輩にもつないでいきたいという力強いお言葉もいただきました。

以上で第4班の報告を終わらせていただきます。飛騨高山高校の皆さん、本当にありがとうございました。

中田議長) 第4班の皆様、ありがとうございました。

次に、第5班、木本議員から報告をお願いします。

木本議員) それでは、第5班の報告をいたします。

第5班は高山西高校の皆さんと意見交換を行いました。高山西高校の皆さんの意見発表のテーマは「外国人観光客についての独自調査結果と観光都市としての成長への考察」で、その概要につきまして、増加している観光客に対して18か国の47組の方にインタビューをしまして、そして、いろいろと観光に対するニーズ等々を聞かせていただいたという中で、外国人観光客のニーズに合わせた、いわゆる満足できる高山観光のためにわかりやすいガイドブックづくりというものの提案をされているということでございます。

これを受けまして、当班におきましては、主にここでも上げてあります課題としまして、販売戦略と、そして、地域格差という面でありますけれども、販売戦略につきましては、売りたいものと買いたいもの、あるいは買いたい人のニーズというのがわからない状況の中で現在はずれがあるというような課題がありますし、また、地域格差という面では、古い町並のエリアと駅前のエリア、市の中でもそういう形で観光客に対する見方も変わってきているというあたりを論点として意見交換を行いました。

販売戦略のずれという意味につきまして、確かに非常に多くの国の方、50か国と言われておるようでございますけれども、そういう多くの方のニーズというのはそれぞれの国によって違いますし、そういう中での販売は非常に難しい面があるんですけれども、やはり現在、外国人全体として見ますと、日本の高山へ来ているわけで、やはり日本として大きく捉えている部分がある。ですので、高山を全面に出して売り込みをするという面でやはり海外の方にびんと

こない部分がある。そういう面では、売り手も日本の中の高山という部分を考慮する部分が肝要でないかというような意見がございました。

また、地域格差の解消という点につきましては、やはり駅から古い町並までの移動の動線が一番になっていないわけでありまして、ここらあたりも観光客のニーズに合わせた取り組みというものも考えていく必要があるのではないかというような意見がございました。また、広域的な1つの対応も大切でないか。それぞれの出身の国や年齢別に応じた、いわゆる細かいニーズの把握というものがどうしてもまずは必要であろう。それに対応した取り組みが今後必要であろうというような意見が出されております。

そうした内容を踏まえながら、当班としましては、意見発表のテーマに関し、ガイドブックが提案されているわけでありましてけれども、この目的別のガイドブックというのをいわゆるペーパーの部分と、そして、インターネットを使って連携した、そういう形でできるだけわかりやすいように、あるいは国別とか、そういうカテゴリー別、目的別というようなことを考えて取り組んでいく必要があるのではなかろうかというような御意見が出されております。いずれにしましても、このニーズに応えられるような整備を進めていく必要があるというような形でまとめさせていただきました。

そのほかに、非常に高山の観光というのは将来におきましても期待ができますし、そして、まちづくりにおいて非常に重要であるという点で、やはり国際観光都市としての市民の意識の高揚という部分も非常に大切ではないかというようなこともございますし、また、伝統工芸品等々、非常にいいものもあるわけでありましてけれども、そういうものにつきましても、その歴史とか、そういうものが海外の方にしっかりわかるような、そういう取り組みをしていく必要があるのではないかというようなことも意見としてございました。

いずれにしましても、高校生の皆さんの若い、そして、いい発想といたしますか、本当に適切な御意見もいただきましたし、私ども、大変そういう面ではうれしく思ったところでございます。

以上で第5班の報告を終わります。西高校の皆さん、どうもありがとうございました。

中田議長) 第5班の皆様、ありがとうございました。

ここで議長として本日の意見交換会について御礼を兼ねて総括をさせていただきます。



本日は、たくさんの市民の皆様にも高校生との意見交換会に御参加をいただき、本当にありがとうございました。また、発表していただきました5つの高校のチームの皆さんにおきましては、日ごろからの実践を通じた意見発表というところで、私たちもその一つ一つの意見に納得もしましたし、これからの研究課題としてもっと議会の中でも取り上げていかなければならないというふうに受けとめさせていただきました。

いただきました御意見、我々が今まででも調査してこなかった案件ばかりではなかったと思います。私たちも一生懸命そうした点について調査しましたが、改めて若い皆様からそれを御指摘いただくことによって、その重みや私たちが今まで思っていたものとは全く違う重みを持って議員の中に広がっていくというふうに確信をいたしております。

今回のこの企画が単なる思いつきで単発に終わるのではなく、皆様から寄せられました御意見に従って継続もしたり、もっと改善をしたり、取り組んでいきたいなということを感じさせていただきました。

各委員会室も回らせていただきましたけれども、活発に御発言もいただきました。ただ、皆様の御意見を十分に議員のほう引き出せたのかなと一抹の不安はございますけれども、今の各班長さんの御報告では、活発な御意見の中で十分な意見交換ができたというような報告でございました。傍聴に入られました市民の皆さんにつきましても、少しはそんなことも感じられたのではないかなというふうに思っております。

今回、安全・安心なまちづくり、産業経済政策の部分、それから、我々が論議いたしました八次総などに盛り込まれた総合的な政策にかかわる部分、多々ございました。持続可能性があり、皆様が将来、高山へ帰ってこられましても、希望のある豊かな文化的にも発展できる、そうしたまちづくりに我々も今後取り組んでいきたいというふうなことを感じさせていただきました。

議会も自立と参加というようなことも標榜しております。今求められていることが皆さん方も含めて議会と一緒に参加をしながらまちづくりに貢献をしていただくということではないかなと改めて感じさせていただきました。参加をするということは、やはり物を言っていくわけですから、政治がそれに動かされます。政治が動かされれば必ず皆さんの御意見に従うように少しずつでありますけれども、よくなるはずです。今後ともそういった政治参加、18歳の選挙権の付与というようなことが始まりますけれども、もうすぐです。皆

さんはもうすぐそういった年齢になられます。今回は議場と委員会室を使うということで、ふだん私どもがやっておる審議、審査の形式をちょっとだけ経験していただくことができたのではないかなというふうに思います。こういう制度的なことも含めまして、我々からももっともっと皆さんに御説明しなければならないことが多々あると思いますけれども、きょうは本当に短い時間でしたけれども、改めて御礼を申し上げます。議場の皆さん、傍聴席の皆さんと一緒に拍手でありがとうと言いたいと思います。よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

〔拍 手〕

以上で高山市議会市民意見交換会、高校生の皆さんとの意見交換会を閉会いたします。お疲れさまでした。

なお、本日の意見交換会の様子は、後日、H i t n e t T V ! で放送するとともに市ホームページで配信する予定ですので、ぜひごらんいただきたいと思います。

この後、全員で記念写真を撮りたいと思います。班ごとにまとまって前のほうにお集まりいただきたいと思います。よろしく願いします。ありがとうございました。

午後4時01分 閉会